



# 戦渦のマリア

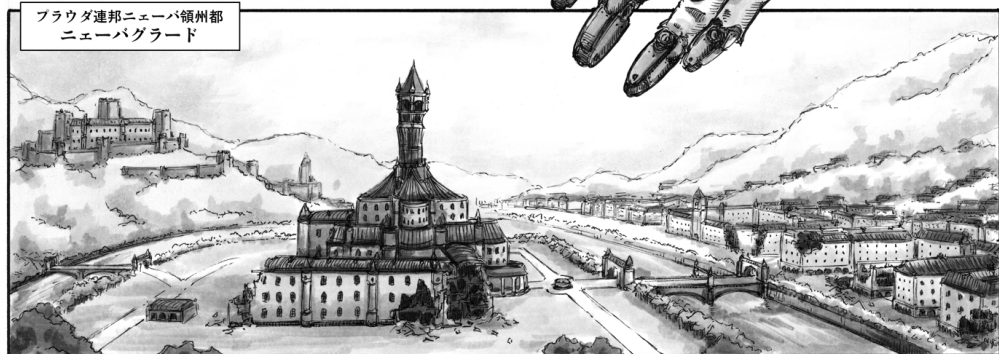
Kampf Mädchen 12

Maria in turmoil of war

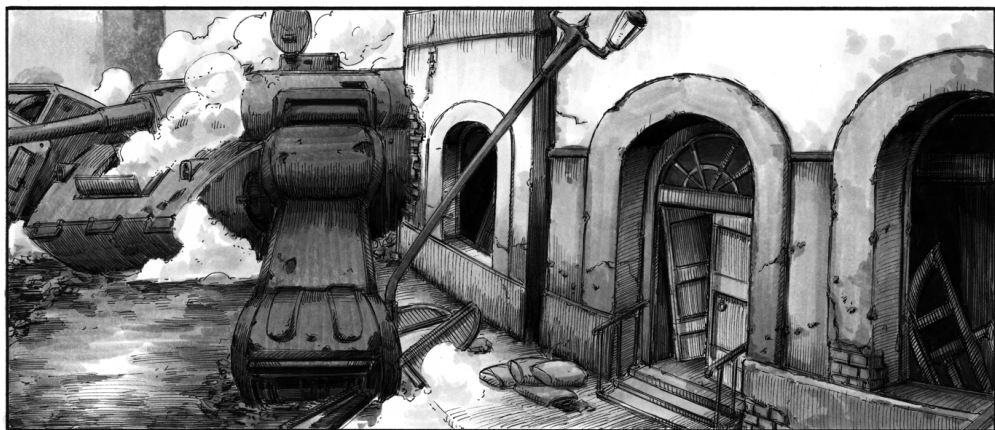
Chapter.11 Ominous 13



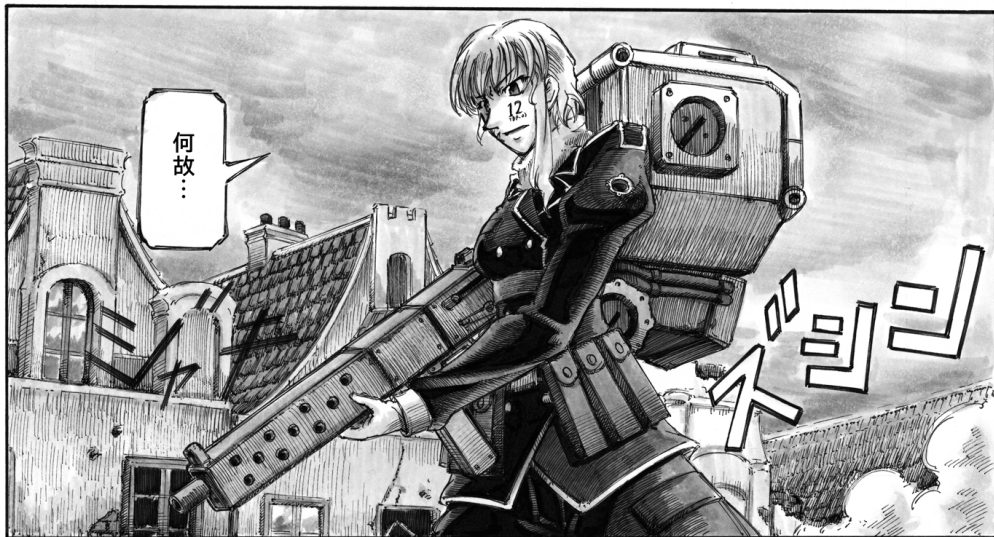
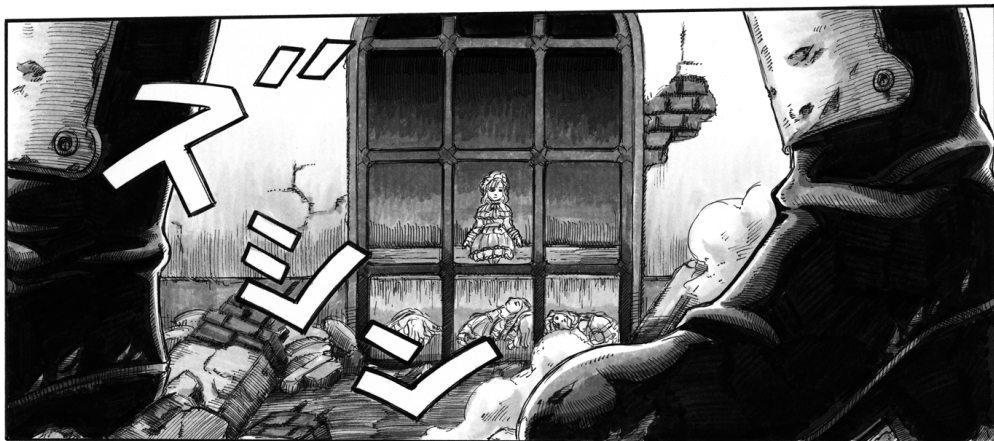
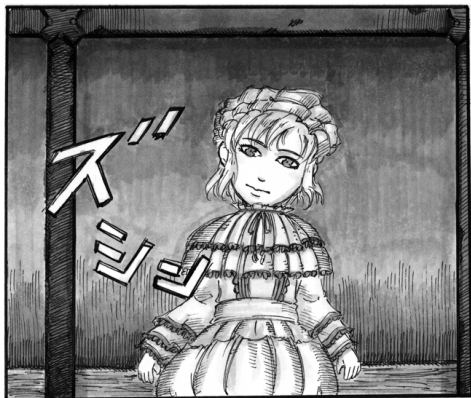
**Master Card Systems**

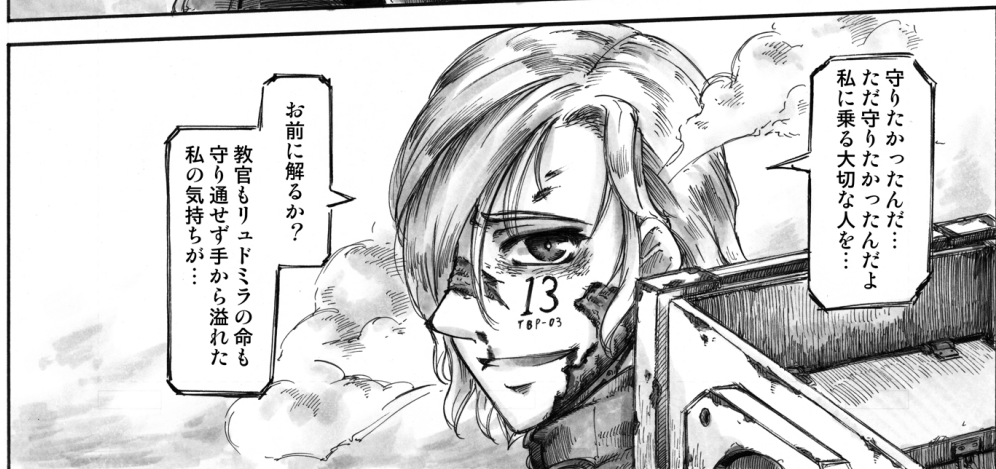
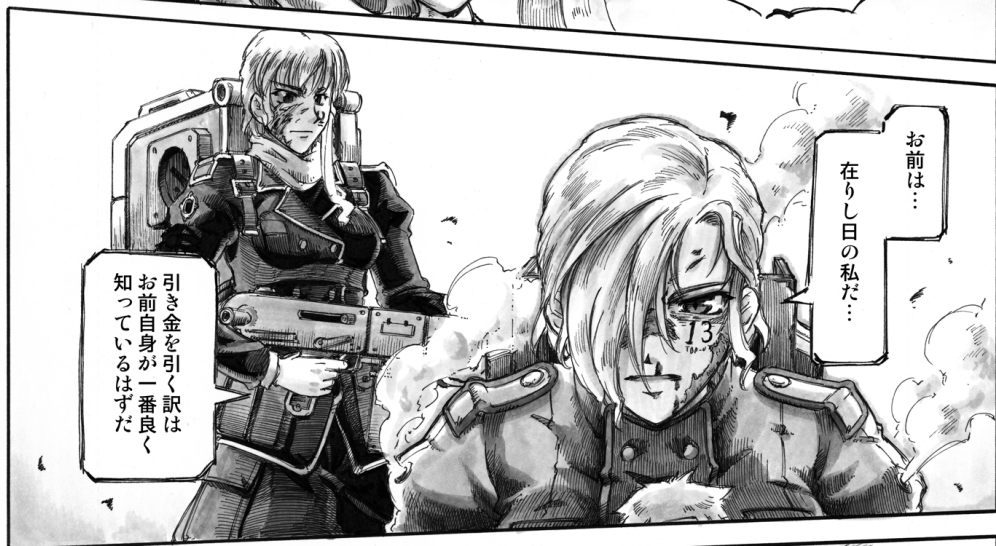






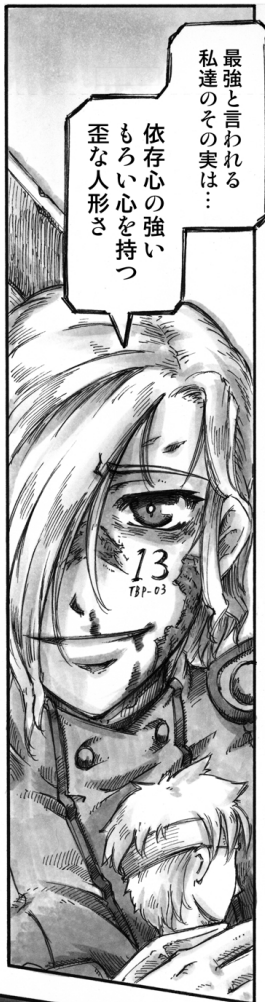








マリア…  
教えてくれ…



最強と言われる  
私達のその実は…

依存心の強い  
もろい心を持つ  
歪な人形さ

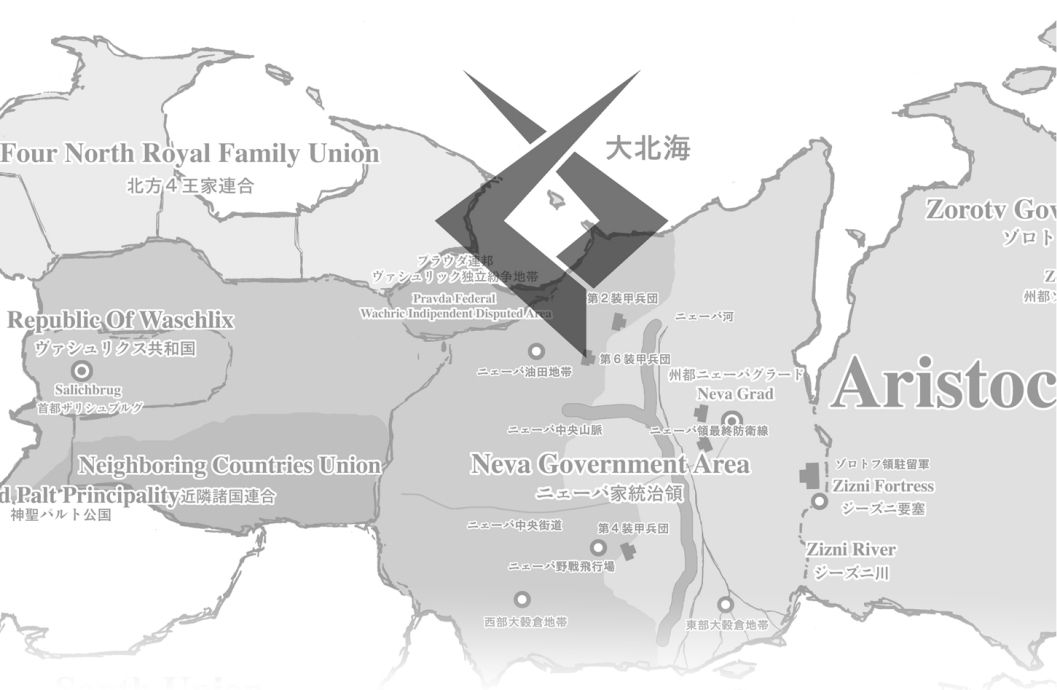


おいエアハルト軍曹  
最期に良い事を  
教えてやろう

涙が流せない  
私達は

この悲しみを  
どうやって  
流したら良い？





## Chapter .11 Ominous 13

カンブメーチェンという存在はそれそのものが機密の塊である。  
当然の事ながらそれが敵の手に渡ればそれは最大の危機となる事は明白であった

カンブメーチェンの起動には1機ごとに教官と呼ばれる認証を受けた搭乗者を必用とするが  
これは教導役をあえて限定する事で実戦経験の蓄積の煩雑化を避け負担増大を防ぎつつ  
習熟の効率性を向上するという狙いがある。

それと同時に専属の搭乗者以外の搭乗を自発的に拒否する事により  
情報の保全を徹底させるという狙いもある。

カンブメーチェンの自我とこの登録システムによる2つの要素により機密の流出は  
強固に防御されていると言えた。

しかしそれが何らかの例外的な原因により自我の変質と登録システムの消失により  
機密情報の流出が起きたら、  
そればかりか機体の再登録が敵の手によって行われたなら、  
それがどれほどの事態をもたらすかは想像に難くない。

しかし、かつてその懸念は実際に発生した事があった。  
カンブメーチェン13号車「エーファ」が随伴部隊と共にニューバ中央街道近郊にて消息を絶った。  
これを期に彼女もまた輪廻とも呼べる数奇な道を迎える事になる。  
そしてその事の発端となったこの事件は後にこう呼ばれる事となった。  
「ズラヴェーシ事件」と…